『土木学会論文集・第VI部門』の発刊に際して

昭和19年3月，『土木学会誌』第30巻第1号臨時創刊“特輯 論文集”として『土木学会論文集』が誕生した．その後，31年2月に論文集編集委員会が設置され，4部門制で32号からの隔月発行が開始された．さらに昭和37年1月に至って月刊となり第78号が，45年には5部門制となり『土木学会論文報告集』と改名され，学術論文だけでなく，工事報告などすぐれた現場における施工技術の紹介をも含ませる内容に改変することを目指した．

爾来，今春までこの方式による編集を続けてきたが，現場技術の報告は予期どおりに登載されることができずに推移する状態が続いた．

しかし，近年あらゆる分野で技術革新が進む中で土木工事における施工分野もその埒外にあることが許されなくなった．エレクトロニクス，メカトロニクス，新素材など先端技術が続いて土木施工技術の中に侵入し，急速な変貌が強いられるようになってきた．ある場合には，これらの技術の導入が理論に先行して行われるなど，計画，設計，そして施工技術も大きく変るに至った．

新しい時代の土木技術は施工技術の発展を無視して考えることができなくなり，土木もまた他の産業分野と同様に技術の勝負といっても過言ではなくなってきた．現場で実際に働く人達の認識もこれに伴って大きく転換し，新しい技術への関心が深まり，その導入を真剣に考えることになってきた．

このような新しい技術革新の流れに対応し，大きい割合を占める現場を担当する会員の要望に応えるべく，本年4月からの部門別発刊に際し『土木学会論文集』に新たに第VI部門を設け，施工技術に関する情報の交換，新しい技術の紹介など，現場に直接タッチする人達が気易く参加し消化できる論文集の編集を試みることにした．

多様化し，高度化の進む中で，土木技術者も従来のいわゆる土木的思考だけでは，十分な役割を果たすことができなくなってきた．現場を担当する会員に新しい時代の土木の知識を伝え，互いに対応を討議する場として第VI部門論文集が役立つことを期待している．

昭和59年9月15日

社団法人 土 木 学 会

論文集編集委員会

委員長 丸 安 隆 和

編集委員，幹事が描いた論文集第 VI 部門のイメージ

会員の皆様，今日は．今般，土木技術を重点的に取り扱って，第一線で活躍されている技術者への貴重で有益な情報伝達のための論文集の発行が決まりました．私達はこの論文集の編集目標を，初代小委員長（故 湯田坂益利さん・大成建設）のもとで，“皆様の役に立つこと”，“土木技術の健全な発展に寄与すること”，“土木技術論文集として最も権威のあること”と認識してスタート致しました．要するに“皆様に愛される論文集”をひたすらに追求することをスローガンとしています．このような目標をどの程度で実現できるかは，一重に皆様のご協力・ご指導によって決まるといって過言ではありません．

あなた自身の技術記録を本論文集を使ってお作りいただくとともに，仲間に知らせる喜びを是非味わって下さい．

（上田勝基）

土木の先輩達は，信念と哲学をもって社会資本の構築にあたってきたと思う．この論文集では，最近の研究偏重の流れの中で，ともすれば蔑視されがちである実務分野（施工技術・管理技術・ノウハウ・フィロソフィーなど）に注目する．これらは，いま第一線の土木技術者が求めているものであり，士気を高揚するものと信ずる．

工事の企画から調査・設計を経ての積算・施工，あるいは検査・補修技術，品質・コスト・安全・工程などの管理手法や環境・公害対策など．また，新素材や機械に関するもの．そして業際的に発展する新技術開発とその商品化．

窓口は広いので，一般のニーズに応える業績を，成果の問題点と批判，将来の展望をそえ投稿してほしい．

（伊佐　秀）

『土木学会論文集・第VI部門』は，多くの実務に携わる会員に関心のある設計・施工技術等の成果の発表の場を提供する目的で発刊することになりました．

会員諸兄には，『土木学会論文集』の編集方針にのっとり，独創的で水準が高く，主として技術の進歩にとって有用な内容のもの，あるいは，主として実用性の面で土木技術に寄与する内容のものを，わかり易い表現を用いてどんどんお寄せ下さるよう願っています．

（小笹太郎）

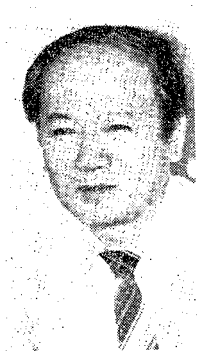
土木の世界にも新しい波が，ゆるやかではあるが確実に押寄せているというのが実感であります．このような変動の時代こそ，土木学会は土木技術者に対して先導的な役割を果たす使命があるのではないでしょうか．そのためには Civil Engineering の原点に戻って従来の認識を反省し，新たな道筋を模索する必要があると思います．

今回，土木学会の論文集に新しく第VI部門が新設されました．本来土木学会の論文集は会員全員のためのものであるはずですが，現状は一部の会員のためにあり，大部分の会員にとっては無縁のものになっているようであります．

この現状を踏まえて，新しい第VI部門の論文集は，今まで論文集に無縁であった大部分の会員，特に第一線の土木技術者が気軽に参加し，読んでもらえるような論文集をめざしてゆきたいと思います．

（坂本健次）

土木学会論文集編集委員会第VI小委員会



土木は経験工学であると言われております．対象が大自然であり，同じような仕事を繰り返し行っても，立地，環境，地質，スケール等千変万化で，毎度新しいアイディアが要求されたり，思いがけない発見や，意外な落し穴があったりするものです．

そのためもあって豊富な知識や経験が要求されるわけですが，一人の人間が経験できる仕事には限りがあります．

第VI部門の論文集は，多くの人々の貴重な体験を基に，効果の上った創意工夫の実例，再び起してはならない事故や失敗の事例，こんな時には参考になるというような成功例，この仕事ではこんな所に大変困惑したという苦労話などを潤沢に盛り込み，読者の皆さんの日常の仕事の上で実際に役に立つ本にしてゆきたいと考えています．切角の体験を自分一人のものにしていては勿体ないと思います．ふるって参加して下さい．　（根上義昭）

第VI分野の論文集は，実際に土木事業に携わっている技術者が，調査，計画，設計や施工を進めていくうえで大いに参考となる論文，また，研究者が新しい研究を進めていく時に大きなヒントとなるような論文を集めたものでありたいと思っています．

したがって，上記のような要件を満たすと思われるものでしたら，どのような土木の領域のものでも結構です．

これらの論文が，わが国の土木技術の着実な歩みと，その水準の高さを世界に誇るようなものであることを，編集に携わる者の１人として期待しています．

（渡辺孝雄）

本誌の編集目的は，ややもすると大学や研究畑偏向にあった従来の論文集の内容をできるかぎり実用技術への対応ができるようにしてゆきたいとする点にあります．すなわち，従来の縦割りから横断的な内容，記事，未来指向型の技術開発といった，いわゆるエンジニアリングを対象に，これまで，土木学会や『土木学会論文集』にあまり縁のなかった多くの現場の技術者に参加してもらえる論文集として，また，第一線技術者に溶け込み役立つ本として編集していきたいと思っております．

それぞれの職場において行われている創意・工夫や技術・開発について，実施するに至った動機や目的，プロセス，試行錯誤，判断，実施およびその結果などを一連のものとして取り扱うとともに，理論や理屈にとらわれない論文等の投稿をお待ちしております．

（大林成行）

土木学会の会員は約 27 000 人，同じ会員を名乗っても各々のめしのたねは千差万別であり，学会の中もいくつかの業界に分かれていると考えてもあながち的外れではあるまいと思われます．それぞれの業界には，潤滑油の役割を果たす業界誌が欲しい．土木学会には論文集があるが，これは学問を生業とする会員の業界誌であって，学問に縁のない多数の会員にとっては利用のしようがなかったのではないでしょうか．

そこで，学問業以外を網羅する業界誌を作り，多数の会員に利用してもらって，学会を盛立てていこうというのが第VI部門の論文集の発刊の狙いだと思います．

各分野で活躍されている会員の皆さん一人一人がそれぞれ大事にしておられるめしのたねを仲間の会員と別ち合う気持で，わかり易く書いて投稿していただければ，誰もが読みたくなり，利用せずにはおれなくなるるような論文集ができると確信しています．　（白砂孝夫）